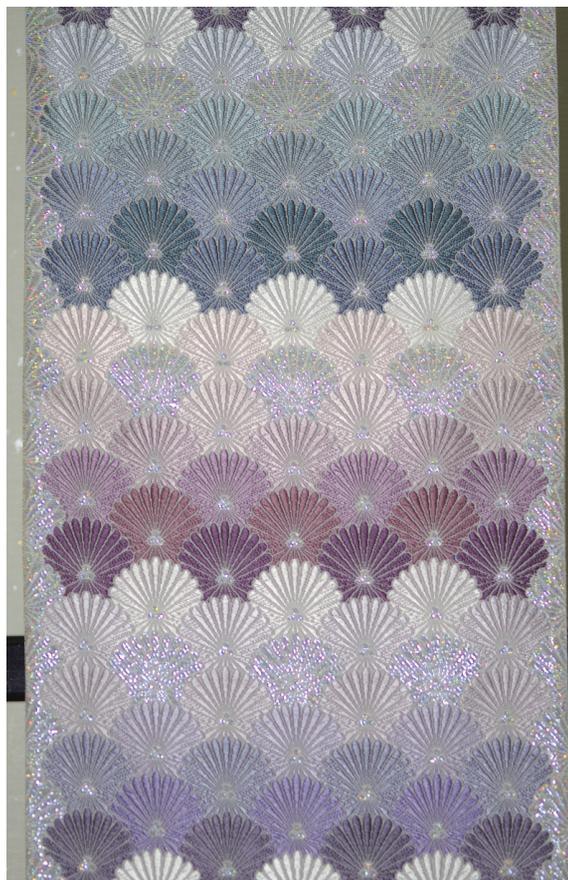


不老長壽帯



京山の『不老長壽帯』です。

全面に濃淡の菊を織り込みました。

菊の花には「清浄」「高貴」「高潔」「生命力」などの花言葉があります。

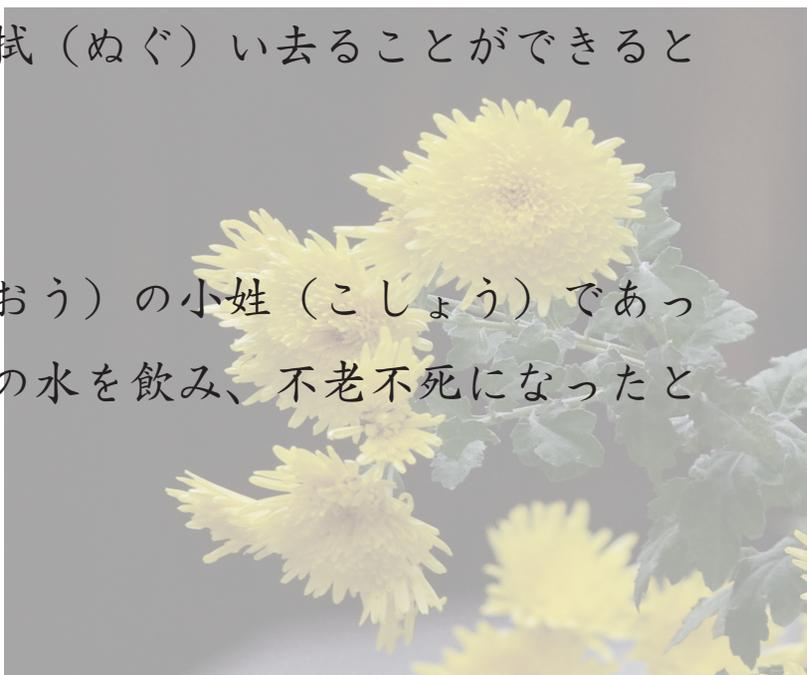
菊は不老長寿の花です。

菊は万病を避け、不老長寿を保つ薬草として日本に渡来したものです。

菊の節句である「重陽（ちょうよう）の節句」の日、菊の「きせ綿（わた）」をします。

九月九日、前夜から菊花に被（かぶ）せ菊の露の染み込ませた綿で体を拭くと、老いを拭（ぬぐ）い去ることができるとされています。

中国では、周の穆王（ぼくおう）の小姓（こしょう）であった菊慈童が菊から落ちた露の水を飲み、不老不死になったという話がありました。



菊はまた、「四君子（竹、梅、菊、蘭）」の一つで、草木の中の君子として称えられています。

菊は晩秋の寒さの中で、鮮やかに凜とした花を咲かせ続ける姿が好まれたのです。

日本の場合、法律で定められた国花はありませんが、一般的に菊または桜が日本を表象する花とされて用いられることが多いようです。多くの天皇が自らの印として継承し、慣例のうちに菊花紋、ことに十六八重表菊（じゅうろくやえおもてぎく）が皇室の紋として定着しました。

このような不思議な力を持つ菊のなかに、ひときわ光を放つ京山の箔糸（はくいと）の菊があります。

奥ゆかしくそこここに、また帯の上下に連ねてあしらわれています。その輝きは雨上がりの美しい空にかかる虹のようです。

そしてまた月の光を思わせ、遠く平安時代に天皇に心を残しながら不老長寿の薬を贈って帰った月の姫君「かぐや姫」をも思い起こさせます。

